

黒大豆安定生産のための簡易土壌水分計を設置

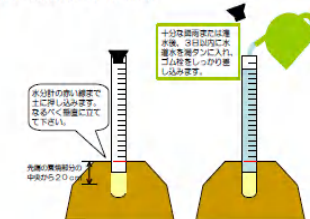
黒大豆栽培において、安定した収量や品質を得るためには、開花期から莢伸長期にあたる8月～9月に畝間かん水を行い、土壌水分を適切に保つことが大切です。当研究所では、昨年から簡易土壌水分計（近畿中国四国農業研究センター開発）を用いて、生産者がほ場の土壌水分を診断し、畝間かん水の時期を判断できる仕組みづくりについて検討しています。

本年は、所内試験とともに、普及センターの協力を得て、南丹市、京丹波町、京丹後市の現地ほ場に簡易土壌水分計を設置しています。今後、生産者にモニター使用していただき、使用感や改善点等についてアンケート調査を実施します。また、土壌水分計の測定値と着莢数や収量との関係を調査し、適切な土壌水分管理の効果を検証する予定です。



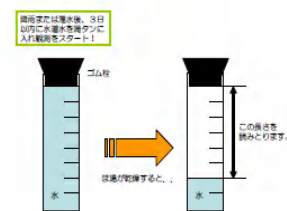
簡易土壌水分計を用いた黒大豆の灌水時期の判断方法
（京都府農業総合研究所作物部 平成20年7月作成）

①簡易土壌水分計の設置方法



<注意！>水分計は、**ろ目の中央、株間の中央**に設置します。
水分計各土に押し込む作業は、**降水または灌水後3日以内で土が湿っている方がやりやすい**です。土が乾いているときは、押し込む場所を水をかけて土を湿らせて下さい。

②土壌乾燥程度の読みとり方



（左）黒大豆の株間中央に簡易土壌水分計を設置する

（右）モニター生産者に配布した簡易土壌水分計の使用マニュアル

